

# 嶺朋会報

平成27年2月27日発行

発行責任者  
嶺朋会長  
松本 玲子

印刷 富士ニュース社

## 入学生を箏の調べでお出迎え



### 新しい視点に立ち、考え、行動すること



嶺朋会長  
松本 玲子

みなさま、お元気でお健やかに過ごしのことと存じます。

日頃より、同窓会の事業にご協力を頂き、誠にありがとうございます。今年度も五月の総会に引き続き、高樓祭で「第三回同窓会のお部屋」が、当番学年の皆様のご協力を得て華やかに開催されました。また、生活館の修復事業も、来年度にはスタートするのではないかと期待しております。

さて、きょう新しいものでも、明日には古くなってしまうほどのスピードで変化している現代社会。同窓生の価値観も多様であることを認識した上で、同窓会は、その時代にふさわしい活動を展開していくことが求められています。

日本は、少子高齢社会の真ただただ中。高齢になった同窓生と若い世代の同窓生では、おのずと求めるものが違います。そこで、どの世代からも、「参加したい同窓会」となるよう、経験豊かな同窓生に加え、若い方々の力もお借りし、少しでも多くの皆

様に参加しやすいよう、工夫していきたいと思っております。

学校では、入学式に、玄関に緋毛氈を敷き、箏曲による演奏で、入学生をお迎えしたり、夏休みには、新富士駅の観光ビューローで、外国からのお客様の通訳をしたり、十一月には、f・ビズさんのご指導のもと、地元の間房と、デパートの協力で、「合格祈願ケーキ」を作成。市民に販売したことなど、変化に富んだ試みを展開し、生徒たちに日常生活とは違う体験に挑戦させております。卒業後、各地に飛び立っても、ふるさと富士で仕事ができる可能性やきっかけを創っておこうという校長先生の発想です。

「今、同窓会に何が求められているのか」、「私たちには、何ができるのか」という基本に立ち、「新たな視点」が持てる柔軟な発想」で、同窓会を運営していくことの必要性を感じております。

同窓生の皆様、教職員の皆様、また、在校生の皆さんにとって、より一層、頼りになる存在になるために、伝統を守りつつ、新たな取り組みに果敢に挑戦してまいります。これからもご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。末尾になりましたが、みなさまのご健康、ご多幸をお祈りしております。

平成26年度「嶺朋」総会に寄せて

昭和38年卒 天野 敦子

平成二十六年五月二十五日、吉原高等学校嶺朋総会が、ホテルグランド富士において開催されました。来賓、恩師、現職の先生や事務局の方々、鈴木武子様をはじめとする卒業生の計一五七名の御出席をいただきました。

当学年は、昭和三十八年卒。私達役員十六名は、わからないことばかりの中心をひとつにしてあたりました。松本会長、神田副会長、事務局の伊達様、川口様のお力添えや前回総会の学年理事の原静子様からのアドバイスをいただきましたことは幸いでした。

今回の総会は、「お・も・て・な・し」をテーマに、ご出席いただいた方々に楽



しんでいただけの会にとの想いで、何度も会合をもち、総会の日を迎えました。

静粛な雰囲気の中、熱い活動をされている会長、副会長によってスムーズに行。世界に翔く在校生のご活躍が、名門吉原高校の名を広めて下さっていることを実感しました。卒業生として何よりの誇りであり喜びです。学んだ年度は違っても、母校を愛する心は皆同じだとしみじみ思いました。

続いて、水上寿江さんの指揮、杉山美彌子さんの伴奏による第一、第二校歌が、すばらしいハーモニーとなつて会場に響き渡りました。

楽しみにしていたお食事タイム。おいしいメニューに心弾ませながら和やかな時が流れ、アトラクションが始まりました。オープニングは、赤いたすきとエプロン、姉さん被りの茶娘達の「チャッキリ、チャッキリ、チャッキリナ」のリズムに合わせ、新茶で作った手造り茶飴配りと茶摘み踊り。踊りには無縁だった人達が、漆畑さんの指導と自身の努力の成果があらわれた舞台でした。合唱は、富士山世界文化遺産登録を記念して「富士山」。続いて、「荒城の月」をピアノと踊りのコラボで会場を魅了しました。フィナーレは、三十八年度卒のメンバーによる花笠音頭。想い出に残る一

日となりました。ご協力下さった方々に厚く御礼申し上げます。

母校と同窓会嶺朋のますますのご発展をお祈り申し上げますと共に、行き届かなかつた点が多々ありましたことをおわび致します。ありがとうございました。

支部だより



富士川支部 昭和41年卒 望月のり子

琴を通しての出会いとつながり

吉高の箏曲部講師で毎日のように通っているという理由で同窓会富士川支部長をひきうけました。何もわからぬまま十年近くになります。名簿をもとに連絡してみたものの、もうすでに知らぬ先輩方も多く後輩達は嫁いで連絡も取れず、それでも先輩方の御協力を得て会合を開くことができ交友をあたためて参りました。

省みると私の高校時代は合唱部に入部し部活の帰りにヴァイオリン教室に通う毎日でした。短大時代に琴の美しい音色に魅了され、琴に転向し「春の

海」の作曲者である宮城道雄先生の門を叩いて四十七年。大勢のお弟子さん達にも支えられ深く温かい力をもらい、約二百人以上の教え子達からも素晴らしい若さをもらっております。

毎年行なわれている静岡県高等学校箏曲コンクールには、県下十五校以上が出場します。吉高は三位に入賞したこともありませんが、今よりも部員数を増やし全国大会に出場できるよう頑張っております。

日本文化の技と心に対し、言葉使いや作法などに口うるさい私ですが、きっといつか解ってくれるだろうと思っております。

過去の部員の中で、部長だったある教え子も吉高卒業後、琴の道に入り、すでに助教の免許状も取得し、私の片腕として活躍してくれています。琴の魅力なのでしょうが、今でも琴が弾きたいと多くの卒業生達が生活館に来ます。街中でも卒業生が良く声をかけてくれます。うれしいことです。詩吟伴奏で知りあつた方々ともつながりが深くなりました。

この文化継承による出会いと同窓会での出会いに感謝しつつ情熱をもち、老いを感じながらも富士川支部長として同窓会と母校の発展に寄与して参りたいと存じます。

これからもよろしくお願い申し上げます。

**高 楼 祭**  
**「同窓会の部屋」から**



昭和48年卒  
山脇さゆり

やプールの授業



「同窓会の部屋」とは、高楼祭の日に吉原高校同窓生の趣味の作品を展示している部屋です。今回「同窓会の部屋」のお手伝いの当番学年になり、卒業後四十二年ぶりに母校を訪れました。校舎が建て替えられたとは知っていたものの、以前の古い木造の建物からは想像もできないくらい立派な校舎が建っていて昔の面影はまったくありません。その中で生活館は以前そのまま



の時に使用した思い出があり何処を見ても懐かしく学生の頃を思い出しました。文化祭当日の生活館の一階の部屋には、昭和二十七年卒業生から昭和五十七年卒業生までの、絵画、アートフラワー、書道、押し花、つるし飾り、フランス刺繍、陶器、切り絵、水墨画等、五十点を越える数多くの力作が並べられ高楼祭を盛り上げていました。「同窓会の部屋」を訪れた生徒、ご家族、卒業生、先生、多くの方々に作品をご覧いただき、お茶やお菓子を召し上がっていただきながら、作品の事や、昔話、今の生徒さん達の屈託の無い話に楽しい時間を共有させていただきました。年代に関係なく、まさに「同窓会の部屋」になっていました。卒業生のすばらしく手を掛けた作品に感動し、新たに趣味を持った同期もいました。私達四十八年卒業生にとって、丁度六十歳をむかえる節目の年に「同窓会の部屋」のお手伝いをさせていただきます。これから自分に向き合う良いきっかけになったと思います。松

本会長を始め、お手伝いいただきました先輩方の、お元気で、バイタリティーあふれる生き方に感動し、ご指導いただきましたことを感謝申し上げます。突然のお電話、メールにもかかわらず「同窓会の部屋」のお手伝いを快く引き受けて集まって下さった同期の方々にお礼申し上げます。

**同期会だより**



吉原支部  
昭和33年卒  
神尾 睦

諸先輩の投稿を拝読して、活発に同窓会を開催しておられる実情を知れば知るほど、私たちの同窓会が開催されていないことを思い知らされました。私自身、母校と一緒に学んだ学友に対しては、それなりの郷愁を覚えますが、日常生活の中に忙殺され、また、リーダー的存在の方が不在となれば、如何ともし難い現実があります。何はともあれ、今年と同窓生全員が後期高齢者に突入する年齢となり

ます。そんな現実の前に、嘗ての友の所在を掴みえない焦りを覚えるのみです。

私たちが吉原高校に入学したのは校舎が緑ヶ丘に移転したばかりの木造校舎でした。当時は体育館もなく、グラウンドの周辺にはユウカリの木が植えられており、その香りが懐かしく感じられます。当時かまぼこ型の建物では、柔道部が練習していた光景が鮮明に思い出されます。

私は剣道部に入部しましたが、練習はいつもグラウンドで、雨天の場合は廊下で練習に励んだものでした。また、音楽の時間には、岡田先生が熱心に合唱の指導をして下さり、年一度音楽コンクールへの出場を果たし、混声合唱部門では、常に出場校一位の実力を発揮していたことは、楽しい思い出となっております。

つたない思い出話に終始してしまいましたが、喜寿を迎えるにあたり、去る平成二十六年十一月十四日に同窓会の開催に向けた役員会を実施致しました。その際の詳細は、またご報告させていただきます。

終わりに、同窓生各位のご健勝と、母校の益々の発展をお祈りし、筆をおきます。



昭和 37 年卒  
西川 ひさ江

私は今泉の茶農家の七人兄弟の五番目に生まれ、大勢の中で楽しく過ごしました。製茶の時期には、今宮や依田橋から沢山の農家が生葉を運んで来て、お茶工場は生葉の薫りでいっぱいになりました。三交替で茶師達が居り、母は休む間もなく大変でした。母は「蒸」を手伝い、あまりのあつさに外に出ては汗を拭う様子が思い出されず。母の思い出は、静かに忙しく動き回っていることばかりです。こんな大家族の中でスクスクと育ち、母と同じ吉原高校に入学しました。今回は高校時代の思い出を交えて人生をふり返りたいと思います。

高校ではソフトボール部に入部。姉や仲間達と共に汗を流しました。二年の時には地区大会で優勝し、県大会まで進みました。学校中で応援してくれたことを覚えていいます。

また、高校のそばに養護施設があり子供が好きな私はよく訪問しました。小柄の優しいお姉さんがおり、ある時私の家に立ち寄り、キャベツが山のように積まれているのを見て驚いていました。お元気ででしょうか？良い思い出です。

その後宝仙短大に入学し、児童文化部の仲間とボランティアで東北地方を紙芝居を持って歩きました。小国という場所では移動は消防自動車！林の中の細い道を小学校の校長先生が迎えてくれました。早速舞台を作り紙芝居を始めると、娯楽のない時代、子供達は目をまんまるくしてじっと見ていました。終わった後は大きなザルにカニがいつぱいのお料理を子供達と一緒に頂き、子供達の喜ぶ姿に逆に元気をもらいました。短大卒業後は地元の幼稚園の教諭となり、両親も大変喜びました。結婚し、子供四人に恵まれ、長女も吉原高校で学び、今は地元の造り酒屋に嫁いで頑張っています。私も七十才になりました。短い

ながらも私達に常に前向きで努力する心を教えてくれた母、そんな母に私も近づきたいと思いながら今後の人生を歩んで行きます。

還暦の節目を迎えて



昭和 47 年卒  
渡辺 栄

「白衣ってかっこいい。」—四十数年前の吉原高校に、薬学部の教育実習生が来たときのこと、昨日のように思い出される。それが、私の新たな目標へのスタートとなった。

中学生の頃、英語が好きだった私は、吉原高校から大学の英文科への進学を目指していた。しかし、成績がふるわず自信喪失。そんな私が、実習生の姿と母の後押しで薬学部に入学したのだった。女子高校出身だったので、男女共学の大学は恥ずかしかった記憶がある。理科が苦手だった私だが、ラットの解剖・実験等、すべて楽しく、今までの私とは違う私が生まれていた。その時、「人って考え方で変わるんだな。」と思った。できないとあきらめてしまえばそれまで。絶対にやると心に決めてやれば、

何だつてできるのだ。「心意気」の大切さを実感した。今でもそう思っている。

薬剤師になって、さまざまなきとがあつた。お客様から「いつも血圧が高いから下げる薬がないか。」と言われ、血圧を計ってみると、逆に低くて上が三十八しかないの、あわてて救急車を呼び、その方の命が助かったこともあつた。「皮膚に湿疹ができたので塗り薬を下さい。」と言って見えた方に、帯状疱疹かもしれないからと皮膚科の受診を勧め、感謝されたことも。また、処方箋を持って来られた方が、他の医院にもかかっていて薬の名は違つても同じ成分なので医師に問い合わせたところ、副作用が出る困るので、その薬は飲まないよう指示してほしいと返事をいただいたこともあつた。中学校の薬学講座で講師として薬の知識を話したことなど、あげればきりが無い。

気づくと還暦を迎えていた。今年には長女の結婚の日に、長男に子供が生まれ、月日の流れの早さを感じるこの頃だ。

これからは強い信念と感謝の心をもって生きていこうと思う。一生勉強。いくつになつても、学ぶことは多いのだから。

主体的に努力する喜び



平成3年卒  
渡辺 喜子

私は去年、自分で脚本&監督&ちよっぴり出演した、『1☆☆1☆☆ちよっぴ』という念願の長編映画を作りました。そして、その映画を富士市内のホールで上映するという一つの夢を、たくさんの富士市の皆様に支えられ、やっと実現する事ができました。

高校時代は、内申書が怖くてあまり自由奔放な行動はできませんでしたが、今四十一才になって自分の歩いた道を振り返ったときに、その道に輝くのは内申書の点数でも出身大・学名でもなく、自分の好奇心と、その好奇心で一步踏み出し開拓した経験や、巡り会った人々であることに気づきました。

『自分が自分の感覚を信じて一步踏み出すこと』

そんな、たくさんの本で読んだことのあるようなシンプルなこと、実は難しく、とても重要なんだと、今回の映画作りや上映会を通して学ぶことができました。

今、思い返すと高校時代までの私は、とても受け身な性格でしたが、高校三年生の時に、『東京の美術大学に進学しよう！』と自分の中から沸き上がって来た想いを実現するために、勉強と絵の猛特訓をした際、苦手だった英語を教えてもらうために職員室に通い、休み時間に英語の先生に教えていただいたり、美術のデッサンがどうしても上手くなりたくて美術部の顧問の先生に教えていただいたりした経験が、私の人生初めての主体的な努力でした。

自分で働いて、自分自身でお金を払って何かのサービスを利用できるようになった今でさえ、高校三年生の時のように、お金で買えるのは学ぶきっかけであって、その上で自身が悩み、切磋琢磨して身につけていく経験こそが重要なんだと、改めて今回の上映会を機に気づく事ができました。

まさか自分が映画監督になるとは、高校時代の私には想像もできなかった事ですが、吉原高校時代に学んだ自分から自分の好奇心を信じて努力する喜びを忘れずに、これからも世代を超えて皆さんに共感していただけるようなそんな作品を作っていけるように、しっかりと生きていきたい

いと思います。

吉高生と出会って



平成22年卒  
仁藤 麻沙

吉原高校を卒業し、早いもので五年の月日が流れました。社会人一年目として奮闘する今、楽しかった高校時代を懐かしく思います。

私は今、社会福祉協議会のボランティアセンターに勤務しています。地元富士市で勤務していると吉原高校を卒業された先輩方と出会う機会が多く、地域の方に「私も吉高だったんだよ」と声をかけていただく嬉しく思います。社会福祉協議会は、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりを目指して、地域の方達と共に進める事業も多いです。そのため、世代は違えど吉原高校卒というつながりから打ち解け、関係を築いていくことで、よりよい地域社会作りにつながるっていくのではないかと思います。

先日、社会福祉協議会が事務局を担っている「市民福祉まつり」が開

催されました。私は主担当としてまつり全体を統括しましたが、初めて事務局側の立場で参加し、慣れないことばかりで右往左往してしまいました。そんな時、ボランティアとして参加していた吉原高校生の姿が目に入りました。彼らは元氣よく参加者のサポートをし、来場者に弾けるような笑顔で対応していました。そんな姿を目にし、ボランティアとして市民福祉まつりに参加していた高校時代を思い出しました。ボランティア活動をすることで、よく先生方から言われたことは、「お手伝いをする」ではなく、「自分も楽しみながら一緒に参加する」という意識を持つこと。当時の私はこの言葉を胸にボランティア活動に参加し、様々なことを学ぶことができました。福祉まつりでの吉高生の姿を見て、この先生方の意識は現在も引き継がれ、吉高のボランティア精神として根付いているのだと感じました。彼らの笑顔を見て、焦ってばかりいた自分に気づき、自分も楽しまなければ参加者が楽しめないと思省しました。今後様々な場面で吉高生と関わることと思います。これからも一卒業生として、笑顔あふれる吉高生の活躍に期待しています。

# 学校だより

## 「夢」が「ふじのくに」へ



学校長 齊藤 浩幸

学習と部活動の両立、文武両道を学校経営の根幹に据えながらも、急速に進化する社会が求める資質を育てるには、優秀な教員の力量だけでは限界を感じます。まさに、地域の力の活用が叫ばれる所以です。

昨年の夏休み、高校での学習と大学の学問、社会の課題を繋ぐ「夢」から「こころざし」へと銘打ち、校外活動を企画しました。「英語通訳ボランティア」では、富士山観光交流ビューローの御協力により、延べ二十二名の生徒が、新富士駅を利用する外国人観光客に、富士山への交通アクセスなどを英語で説明しました。また、富士市産業支援センター（エフ・ビズ）、松坂屋、まめひろ、富士高原スイーツ工房の御協力により実施した「富士市を元気にする」スイーツビジネスプロジェクトでは、八名の生徒が、味やデザイン、販売



価格と数量、スイーツ名について意見を出し合い、決定しました。考案に携わった生徒は、接客マナーも学び、十一月一日から三日まで販売も行いました。完売できた喜びとともに企業経営の難しさも学ぶことができました。企画が短期間の準備期間であったにも関わらず実践でき、大きな成果を上げることができたのは、先輩方が地域で活躍されてきたおかげであると確信しています。

外国人観光客がなぜ新富士駅を利用するのか、スイーツになぜ抹茶を用いたか、活用できる資源に気づく時、この地域の魅力を新発見・再発見することが出来ます。魅力溢れるこの地域で、大学などで学んだ専門性を活かしていこうとする高い「こころざし」を持つ人材を育成したいとの強い思いもあり、校外活動を企画しました。国際科の生徒であれば、優れた語学力を活かし、地域の魅力を全世界に発信する気概もほしいと思います。眠っている地域の魅力を掘り起こす高校生の感性や行動力は、地域創生が叫ばれる今、起爆剤となる可能性を秘めていると考えています。

# 水泳部

顧問 松本誠司

水泳部は、昨年、東海大会で、四百m自由形で七位入賞を果たした遠藤綾乃が、高校総体県大会で二百m自由形で六位に入賞し、二年連続で東海大会出場を果たした。また、相澤詩織も五十m自由形で県大会八位に入賞し、東海大会に出場した他、鈴木萌華は、二百m自由形で九位となり、おしくも東海大会出場は逃したものの健闘した。

高校総体東部大会では、女子メドレーリレーが四位、女子自由形リレーも四位で県大会に出場し、女子総合でも四位に入賞した。男子は、四百m個人メドレーで



辻村拓夢が七位、壬生裕章が九位となり県大会へ出場した。

新人戦東部大会では、遠藤綾乃が四百m自由形二位、八百m自由形三位、鈴木

# ハンドボール部

顧問 高井翔平

萌華が、二百m自由形五位、百m自由形七位、相澤詩織が五十m自由形四位、百m自由形八位、高橋紗希が五十m自由形八位、女子メドレーリレーは三位、自由形リレーは四位に入賞、男子四百m個人メドレーでは、辻村拓夢が五位、壬生裕章が六位となり県大会に出場、女子総合では五位に入賞した。

新人戦県大会では、遠藤綾乃が八百m自由形で八位、鈴木萌華が二百m自由形で七位、相澤詩織が五十m自由形で七位に入賞した。この三人を軸に、来年も東海大会全国大会をめざしていきたい。

吉原高校に赴任し、チームを率いて今年で三年目となりました。インターハイでは、なかなか結果を残すことができていません。しかし、新人戦では、一昨年在東部大会で準優勝、県大会でもベスト8、さらに昨年は、東部大会で優勝し、県大会でも一昨年と同様にベスト8の成績を残すことができました。今年のチームでも、新人戦で結果を残し、さらに、インターハイの県大会でも、上位入賞できるように、毎日の練習や日々の学校生活を大



切にしていきたいと考えています。さて、私はハンドボールの指導をするにあたり、常に念頭に置いておくことは、普及活動です。ハンドボールは、サッカーや野球と比べると認知度は低く、特に静岡県ではより一層、その値は大きいように思います。しかし、ヨーロッパでは、サッカーの次に人気があります。プロリーグも各国に存在しています。私は、一人でも多くの生徒にハンドボールの魅力をお伝えして、そのような指導を心掛けてきました。現在では、長期休業の度に、卒業生が練習に参加し、現役の生徒達と共に汗を流すことも増えました。私の教え子同士が世代を超えて交流するようになってきました。とても嬉しいことです。これからもハンドボールの魅力をお伝え続け、多くの生徒に楽しいと言ってもらえることを願っています。

### 茶道部

部長 秋山日向子

私たち茶道部は、毎週金曜日に外部の先生方にご指導を頂き活動しています。

茶道部の主な活動は五月に行われる文化祭のお茶会に向けて、茶道の手順や所作を覚え、美しいお点前を目指すためにお稽古をしています。部員のほとんどが茶道未経験者だったため入部当初は道具の名前を覚えるのも一苦労でした。今年度の文化祭では、半東としての仕事をしながら先輩方のお点前を間近で見、厳かな雰囲気の中で美しいお点前するのは簡単なことではないと感じました。週一度という限られた回数のお稽古なので一回一回を大切に、来年のお茶会も成功させられるように部員一同協力し合って稽古に励みたいと思います。

普段の茶道部は部員みんな仲が良くとても居心地のいい雰囲気です。稽古は大変ですが、おいしいお茶とお茶菓子と部員たちとの会話が一週間の疲れをいやしてくれている気がします。

日常の中で茶道などの日本文化に触れる機会は少ないと思うので、



私たちのお茶会を通して少しでも多くの人に日本文化を体験し、興味を持ってもらうきっかけになればいいなと思っていますので、参加するのをためらっている人には是非、あまり気を張らずに気軽に参加してほしいです。

### 女子サッカー部

部長 深澤 南

私たち女子サッカー部は、一年生八人、二年生九人の計十七人で活動しています。高校生になってからサッカーを始めた人がほとんどですが、インターハイベスト4という目標に向け毎日練習をしています。

新チームになってからは、試合で勝つことが少なく、なかなか結果を残せていませんでした。試合に勝てないのはとても悔しく辛いことでしたが、部員全員で選手権



に向けて日々努力をしていきました。選手権では、目標の予選リーグ一位通過することはできませんでしたが、ベスト8に入り、決勝トーナメントへ進むことができました。決勝トーナメントでは、一試合目で負けてしまいました。ここまでこれたのはチームにとって大きな自信につながると思っています。試合に勝つことだけがいいのではなく、課題もたくさん見つかりました。これからの練習で、見つけた課題を改善していきたいと思っています。インターハイベスト4という目標は、簡単に達成できる目標ではありません。毎日このチームよりもレベルの高い練習をすることが必要になってくると思っています。二「念通天」をモットーに、顧問の池谷先生、部員全員で目標達成のため頑張りたいと思います。

仲間のお花

俳句

青時雨心の聲におく本音

昭和十七年卒 海野 愛子

ずり落ちる眼鏡をあげて大根蒔く

昭和二十一年卒 渡辺 清子

世界遺産の富士に捧げる新走り

昭和二十二年卒 藤田千代江

切れ切れの夢紡ぎゆく秋の雲

昭和二十六年卒 小山 貴子

花葛の風の届きし水辺かな

昭和三十年卒 望月 光代

鐘楼門くぐれば春の鳥の声

昭和三十一年卒 杉山美佐子

新涼の蒼天を富士独占せり

昭和三十一年卒 関口喜代子

ひまはりの列なして咲く保育園

昭和三十一年卒 小林 令枝

鉄橋にドクタイエエロー雪解富士

昭和三十一年卒 金子 里美

手拍子に合はせて大書五月晴

昭和三十一年卒 加藤 雅子

詩

ものさし

太田富美子 昭和三十一年卒

私のものさしは正しい

見て 一分一厘の狂いもない

あちらが正しいなんて

少しも思えない

あちらも

自分のものさしこそ正しい

と振りかざす

男と女が

与党と野党が

イスラム教とヒンズー教が

国と国が

争う 争う

近頃 私のものさしは

世の中の常識が計れなくなった

正しくないと思うことが

正しい顔をして

往来を罷り通っている

私は 古くなったものさしを

労わりながら

筆箱に仕舞うことにした

先祖代々受け継がれたものだから

そう易々と捨てきれないのだ

抑えて抑えて と宥めても

筆箱の中で時々カカカタとなる



編集委員長 神田富美子
編集委員 小林 君子・渡邊 弘子
川島 けい・三木 政代
太田 若代

平成27年度 吉原高校同窓会
「嶺朋」総会
日時:平成27年5月24日(日)
10:00~総会 11:30~懇親会
会場:ホテルグランド富士
会費:5,000円 ※当日会場でお預かりします
・H27年度総会の当番幹事は、S39年卒の皆さんです。
・出席ご希望の方は、4月24日(金)までに下記までご連絡ください。
嶺朋事務局(080-5134-4480)または各学年理事まで。

支部長名簿
平成27年2月現在

Table with 4 columns: 支部名, 氏名, 卒年. Lists branch names and members like 吉原 太田 素雅 51, 今泉 渡邊 文江 41, etc.

編集後記

元編集委員長で、編集顧問を務めていただいた飛奈昇様が、前号を以て退任なさいました。永きに亘つての御尽力に心より感謝申し上げます。
また二名の編集委員が代わりましたので、引き続きよろしくお願い致します。

次号もより充実した紙面づくりを目指していますので、幅広いご寄稿並びに紙面に対するご意見、ご要望もお待ちしています。(神田)

西家さんが書籍出版

元教諭の西家文代さんが『高校新聞ルネサンス実践集』出版され、吉高にも同書を寄贈していただきました。「新聞で学校起こし」をモットーに、各校で輝かしい実績を残されたのは周知の通りです。吉高での実践記録も紹介されています。

お問合せは西家さん(〇五四五―三八二―三二一五)。価格は税込一八〇〇円。

